

編集後記

「総合リハビリテーション」も、この号から6巻になる。私の手元には製本された本誌が4冊ならび、どうやら本棚の中の一部をしめるようになってきた。まるでリハビリテーション医学の成長を見るようで頼もしいかぎりである。

さて本号は「膝」の特集である。膝と言えど角力のように“西”は新野，“東”は腰野ということになっており、この両氏から御多忙中にもかかわらず寄稿していただいたことにまず感謝したい。運動学は私も大に関心を持っているので興味深く読ませていただいた。階段の昇降の項などもわかりやすく面白い。岩倉氏のADLの論文の焦点は評価の点数化にあるように愚考する。諸家の方法に対する1つのチャレンジとして今後大いに引用されるようになるものと期待する。那須氏らの検査法はかゆい所に手のとどくような実地的なもので、氏らが日常の診療で行なっていることを記してあるのだろう。川崎病院の

外来の戦争のような忙しさの中から生れたものだけに貴重である。三輪氏の論文については、臨床家には仲々できないことであり、データ、考察ともに変形性膝関節症を考えて行く上に欠かせないものとなるだろう。腰野氏の機能訓練に関するものは、氏の豊富な経験に基づくものとして高く評価したい。

さて本号より講座として「筋・神経系の電気診断」がはじまる。最初は鈴木教授の「歴史」だが、わが国における筋電図の草分け的存在である氏だけに、興味深い。針電極も手製であった時代を考えると、とにかく現在はやりやすくなっていることがわかる。

他に佐藤氏の論文、渡辺氏の論文も本号にふさわしい立派なものである。

終りに巻頭言の児玉氏の指摘されたように「日本のリハビリテーションに関する環境は未熟」であり、われわれもそれを心するとともに、読者と手を取りあってその改善と取り組んで行きたい。
(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告(第6巻第2号)

特 集 失語症

失語症の分類(歴史と現状)	七沢病院	福 井 罔 彦
失語症の評価	都老人研	笹 沼 澄 子
失語症に対する言語治療の実際	都老人研	綿 森 淑 子
失語症の治療効果	七沢病院	竹 内 愛 子

講 座 筋・神経系の電気診断(2)(筋電計とその周辺機器)

.....	沼本クリニック	沼 本 満 夫
-------	---------	---------

一頁講座 関節(2)(正常関節の解剖学)

国立名古屋病院 長 屋 郁 郎